

■矢野恒太 保険行政家、実業家。日本最初の相互会社(第一生命保険)を創立、現在も続く「日本国勢図会」を創刊した。

やのつねた

薩摩藩士密航1865＝ 備前国(岡山県)竹原で、蘭方医の三男に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 3歳：

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：

明治14年政変1881＝16歳：

岩倉具視没・1883＝18歳：

第三高等中学校(岡山医大)医学部を卒業後、東京に学び、

帝国憲法発布1889＝24歳：

帝国議会始・1890＝25歳：日本生命の保険医になり、かたわら生命保険制度の学習を始め、

大本教・・・1892＝27歳：待遇問題で片岡直温と対立し、保険界に入ることを決意。相互会社制度の熱心な提唱者となり、

郡司千島探検1893＝28歳：*「非射利主義生命保険会社の設立を望む」を著し出版。生命保険組合を始めていた安田善次郎に招かれ、

日清戦争始・1894＝29歳：*自ら作成した生命表にもとづいた共済生命保険合資会社を設立し、支配人となった後、

日清戦争終・1895＝30歳：ドイツに留学し、相互保険に確信を得て、

帰国したが、自らの主張を受け入れられなかったため、

子規句歌革新1898＝33歳：共済生命を辞して、所管官庁の農商務省に出仕、民間人として保険業法の起草に参画し、

ビアノ国産化・1900＝35歳：同法制定後、初代保険課長に就任した。

田中正造直訴1901＝36歳：しかし、理想とする相互会社の設立が見られないことから、官を辞し、

教科書疑獄・1902＝37歳：*日本最初の相互会社である第一生命保険を設立し、専務取締役となった。

加入者配当や外務員制度など、新しい経営方式で発足、当初は契約不振に悩まされるも、

日露戦争終・1905＝40歳：

韓国反日暴動1907＝42歳：配当を実施して評価を得、以後、業務が伸長して、

韓国併合・・・1910＝45歳：

明治天皇没・1912＝47歳：

21ヶ条要求・1915＝50歳：同社社長に就任、

ベル仁条約・1919＝54歳：この頃には、五大生命保険の一つにまでなる。

原敬首相暗殺1921＝56歳：

理想家肌で、保険の数理・統計知識の普及にちとめる一方、渋沢栄一とともに、産業社会の発展に伴う精神教育の必要を唱え、携帯用「ポケット論語」を編集するなど、儒教の振興にもつとめた。

護憲三派圧勝1924＝59歳：

金融恐慌・・・1927＝62歳：「日本国勢図会」を創刊。田園都市・目蒲電鉄社長もつとめる。

共産党事件・1928＝63歳：

満州事変・・・1931＝66歳：

日中戦争始・1937＝72歳：

健保+総動員 1938＝73歳：*社長を退き、第一生命会長に就任した。

戦時中は東北興業・台湾拓殖の設立委員として活動し、

日米開戦・・・1941＝76歳：

晩年は、結核予防事業に尽力。

敗戦・・・1945＝80歳：<敗戦>により、

新憲法公布・1946＝81歳：引退。以後、契約者の損失に対する責任を感じ、質素な生活で過ごし、

独立回復・・・1951＝86歳：没した。

没後も、財団法人矢野恒太記念会が「日本国勢図会」を発行し続けている。